

“守る健康”から“創る健康”へ。 人と人の交流が元気を育む。

幼い子供からお年寄りまで、すべての町民が健やかにイキイキと暮らせることが町づくりの基本。“いつでも、どこでも、だれでも”受けたい福祉サービスが選べ、適切に利用できるなければならない。町では「利用者」のことを考えた福祉を

徹底するための体制強化に力を注いでいる。

平成十二年から始まった介護保険システムはもちろん、予防・検診・在宅介護など総合的なサービスはすべて利用者が選べ、町はそれを支援していく格好だ。

“守る健康”から“創る健康”にも重点的に取り組んでいる。たとえば、平成九年度から始まった「地域ふれあいサービス事業」。月に一回程度、家に閉じこもりがちな高齢者の方に、公民館などに足を運んでもらって、ボランティアの人たちといっしょに立てた企画を楽しむという

もの。食事を作ったり、ゲームや趣味など、だいたい午後の三時くらいまで続く。現在、十六カ所で行っている。

ミニ・デイ・サービスも同様。農村環境改善センターに集まってもらい、午前中はゲームなどとして、午後からは福祉バスで川南温泉に行く。夏休みだったりする子供たちが参加することもあり、ひとときのふれあいを楽しむ。月一回のこのサービスを心待ちにするお年寄りはかなり多い。

こうした福祉の現場はもちろん、豊かな地域社会づくりの一端を支えているのが各種のボランティア団体だ。現在、川南町ボランティアセンターには



十団体が登録している。多くの医療分野の専門家も加わるボランティア養成の「尾鈴ボランティアサークル・ふれあうぐらしの会」をはじめ、様々な奉仕活動に取り組む「川南町赤十字奉仕団」や訪問介護サービスを行ったり、ミニ・デイ・サービスを手伝うなど高齢者福祉活動に取り組む「J・A尾鈴川南女性部・すみれ会」、地域ふれあい事業を支える「民生児童委員女性の会」、保護司や関係団体と歩調を合わせ、すべての人間が尊厳を持って生きられる社会づくりを目指す「川南町更生保護婦人会」、住みよい地域づくりに五十年以上も奮闘してきた「川南町地域婦人連絡協議会」のほか、「川南手話サークル・ひまわり」、「人形劇D51」、「川南町演劇同好会」、「合唱団リバーサウスハーモニ

ー」がある。



ところで、川南町の高齢化率は二二・二％（平成十三年）だ。六十五歳以上の高齢者は四千人近くいることになる。ますます高齢化が進む中で、これを町の活気につなげるには、元気なお年寄りが増えること。これがそのまま町の元気につながるはず。

町では各地にある長寿会を支援し、スポーツや趣味を通じた、健康増進、生きがいづくりを応援している。町内六カ所で行う十一回の講座を実施する「高齢者教室」や単位制による高度な学習を行う「長寿学園」、また、シルバー人材センターにも二百三十人ほどの登録があるなど、「生涯現役」を実践するお年寄りは多い。

こうした高齢者に人気なのが、年間六万五千人ほどが訪れる川南温泉。町内外から絶大な支持を受けている。一番の理由は循環型ではなく、湯量たっぷりの天然温泉であること。ナトリウム―塩化物温泉で、神経痛、筋肉痛、冷え性などに効く。温泉スタンドで給湯すれば持ち帰ることも可能だ。町民の健康増進にまさしく強い味方である。